新型コロナウイルス感染症・経済支援策

飲食店利用再生へ、県が認証制度

感染予防の設備導入に補助、遡及支援も実現

県は『ふじのくに安全・安心認証制度（飲食店）』を開始しました。県が新たに定めた52項目（飲食店の場合で、接待や歌唱を伴う店には追加基準あり）の認証基準を備え、申請後に現地調査による適合の判断が得られれば認証マークの交付を受けられるというもので、感染予防に取り組む店舗の利用を促進するのが狙いです。

また、この認証取得のために設備投資を行なった場合には、補助の対象とすることとし、令和3年5月20日から12月31日までの費用について、店舗面積に応じて10～30万円を支給します。

更に市町の要請に応え、これまでに実施した感染予防の設備や消耗品購入等も補助の対象となり、令和2年1月6日以降の領収書があれば、申請が可能です。

この際是非、感染予防の徹底と誘客に活用されますようご利用を検討ください。お問い合わせは、同制度事務局0570-020-112まで、平日午前8時30分～午後5時15分の受付。

県の認証マーク
協力店にご協力ください！

円滑なワクチン接種の実現へ！

接種遅れの原因と対策

医療従事者に続いて、65歳以上の高齢者にワクチン接種が始まったのが4月12日。6月28日時点で、静岡県のワクチン接種率は全国43位と低迷が続いています。

ワクチン接種によって早く集団免疫を獲得することこそ、最大の感染予防であり、人類の願いでもあります。

順位を競うことに意味はありませんが、遅れている理由を探ることは、コロナ禍に生じた多くの課題のアプローチを考える上で、大きな意義があると思います。

第一に、国の全体計画の提示が遅かったため、診療所等の接種より集団接種に重きを置いた市町が多かった本県では、集団接種の会場やスタッフの確保、配置の準備に時間を要し、出遅れてしまったことが挙げられます。

確実な計画とワクチン現物を待つ慎重さが、遅れを生じさせたというのです。

第二に、接種の予約事務の混乱です。かかりつけ医での接種スケジュールを保健当局が請け負ったために、電話もネットも回線がパンクしてしまい、現場では、集団接種の予約表は空きが残されたまま日々が過ぎるという事態が発生していました。

そして最後の理由が、集団接種会場の利用が進んでいないことで、アクセスに課題があったり、会場の安全さや混み具合が正しく伝わっていないことが背景にあるようで、周知の不徹底が要因と言えます。

さて、ワクチン接種の本格化はこれからです。国によって職域による優先接種は打ち切られましたが、今度の心配は就労者への速やかな実施が実現するかです。働いている方々の接種が休日に集中していては、絶対に加速化しません。

企業によっては、健康を守るために、接種のために有給休暇を設けたり、奨励金の支給を行なっている事業所も登場しています。

私たち自民改革会議は、こうした事業所の協力に応えようと、知事選の最中に『加速化奨励金制度』の創設を提案し、平日のサラリーマンとその家族の接種を加速させようと考えました。未だ実現していませんが、加速化に繋がるあらゆる戦略を、今は何よりも優先するべきなのです。

そしてコロナ対策で発生した行政の新しい業務を、社会全体で担う工夫が必要だと、今更ながら感じます。

遅れの要因となった電話受付や予約割振などは、行政職員よりもスキルに長じた業界はありますし、自粛の呼びかけや感染予防のための設備活用、何よりも住民のニーズ把握には、もっと民間のコンサルタントの視点が必要だったように感じます。

ワクチン接種で対策の全てが終わる訳ではありません。一つひとつの取り組みの検証を通じて、私たちは今よりも強く、逞しく、そして賢くならなくてはなりません。

相坂が発起人となって、自治会・町内会活動の活性化を応援する議員連盟、設立

県議会の自民党会派で6月30日に『自治会・町内会活動の活性化を応援する議員連盟』が発足しました。

地域の自治組織である自治会・町内会への住民加入が減少し、老人会や子供会などの伝統的な地域組織が失われたり、役員などの負担が一部の方に集中するなど、近年は地域活動の存続が懸念されています。

一方、行政から自治会への依頼事項も年々増えており、加えて、災害の頻発や高齢化の進展によって、地域社会の役割はますます重要になっています。

そこで、伝統的な地域活動の保持、自治会活動への支援の確立、自治の奨励を目的に、議員連盟を発足しました。

発案、設立発起人を相坂が務め、自民改革会議所属の県議35人で活動を開始。

今後は、自治会活動の活性化に資する事例の収集と調査を通じ、地域の方々と講演会や勉強会を重ね、公園や公民館などの整備、自治会加入率の向上支援、自治会独自の予算によるまちづくり事業の確立などを目指し、応援条例の制定も視野に入れ、広く市町議会との連盟、浸透を図っていきます。

エフエムハイ76・9 県政報告ラジオ 静岡AIPRESS
毎月第一月曜10時放送中

エフエムハイさんでの県政報告ラジオ『静岡アイプレス』も今年で9年目を迎えました。毎月第一月曜日の午前10時からの30分間。

番組の構成は、毎月の活動報告を行ってから、県政の時事主要テーマを取り上げたり、ゲストをお迎えして防災や選挙、教育などについて対談を行ったりしています。

今年は、県経済政策課長と「コロナ禍の企業支援策」、天野一県議と「議員条例について」、中島・大里東自治会連合会の石上会長、三津山会長と「浜川の浸水対策」などを紹介してきました。

ゲストの中島自治会連合会石上義之会長
大里東自治会連合会の三津山清会長と。

～結びに～

最後までお読みくださいましてありがとうございました。ワクチン接種も始まり、コロナ禍の出口はきっともうすぐです。気を緩めず、みんなで支え合い、励まし合って、乗り越えましょう。皆様のご健康を心からお祈り申し上げます。

県市行政へのご意見、ご要望は、当事務所054-258-4778まで、お寄せください。

静岡県議会議員 自民改革会議

相坂せつじ

AIPRESS Vol.10 県政報告

■静岡県庁自民改革会議控室
〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6
TEL.054-221-2566 FAX.054-221-3379

■相坂摂治事務所
〒421-0115 静岡市駿河区みずほ3-3-50
TEL&FAX.054-258-4778
MAIL.aisaka@ka.tnc.ne.jp

本紙に関するご意見、県政に関するご要望はこちらまで。

投票率上昇、川勝知事4選
県政の課題、浮き彫りに
解決力発揮する議会の実現を！

6月20日に投開票が行われた県知事選挙、投票率が前回より6ポイント以上も上昇して52.73パーセントを示した。しかし、選挙戦で争点とされたリニア工事に伴う大井川の水量減少問題やコロナワクチン接種の加速化などに、果たして充分な処方箋が示されたと言えるだろうか。

投票率向上、52%超へ

知事選への関心の高さは、期間中の世論調査や期日前投票の利用状況に現れていました。知事選で投票率が50%を超えたのは12年ぶり。この要因と評価について、私見を紹介したいと思います。

ある報道機関の県民アンケートでは、6割以上の県民が知事を選ぶ上で「政策」を重視しており、「経験」や「人柄」で選ぶと回答した方は僅か1割程度です。そして、知事に取り組んでほしい政策として、6割の方が選んだのが「コロナ対策」で、以下「経済」「リニア」「医療」「防災」の順で続いています。

あれほど「命の水」が争点だと叫ばれながら、この問題を重視したのは全体の3割に止まっていました。

現県政への評価として「コロナ対策」を適切と評価していた県民は29%、不十分と答えたのは41%で、決してこれまでの県政が高く信任を得ていたとは言えません。

しかしながら投票率は上昇、現職の川勝知事は96万票超という極めて高い得票を示しました。

青年会議所が主催した
←5月25日開催の公開討論会

県知事選挙の争点は？

県民の最大の関心が「コロナ対策」にありながら、選挙戦序盤の争点は、専ら「命の水」問題でした。

もちろんリニア工事に伴う大井川水量の減少と保証の問題は、本県にとって重大なテーマであり、やがて川勝知事は自らを、あたかも工事を推進する怪物に立ち向かう小さな鼠に例え、権力に立ち向かう自己演出に成功したのです。

しかし多くの県民が既に承知していたように、水問題は国の有識者会議で検証されている最中であり、あらゆる材料が出揃う前に、深く関係する政治家が過剰に判断を示すことは、むしろ専門家の判断を左右する恐れもあり、実は公平さを著しく欠くものではなかったかと、私は思っています。

5月31日開催の静岡県生活衛生同業組合から経済対策要望書の受取→

政策は示されたか？

では、県民の関心が高かった「コロナ対策」について、この選挙戦を通じて、充分な政策が示されたのでしょうか。一年半に及ぶ感染防止対策への総括、疲弊する経済への支援、ワクチン接種の加速化への具体的な処方箋など、私たちが直面する「命の安全」について、決して議論が深まり、選挙戦を通じて政策が前進していったとは思えないのです。

これこそが、県議会最大会派である私たち自民改革会議の敗因だと思っています。

耳目を集める川勝知事の個性や戦略が選挙戦を制した面もあるでしょうが、県民の期待は「政策」にありました。ここに曖昧さを残したまま選挙戦に臨んでしまった私たちには、とても大きな反省が残ります。

県民の生命と財産を守るために、県政があります。

そのための道筋と具体的な手段を、適切な時期にはっきりと示して共感を呼び、目標を共有することが、選挙の基本です。

私はこの反省に立ち、再び川勝県政と対峙しなくてはなりません。自らの政策に絶対の自信を持ち、毅然とした姿勢で臨みたいと思います。

■令和3年度議会人事
議会運営委員長就任

国会にも県市議会にも、議会運営委員会が設置されており、提出される議案や議員が行う質問の内容や会議の順序を確認し、国に提出する意見書の協議もここで議論されます。事務的なミスで会議が中断することがないよう、かなり綿密な準備を行うのです。知事などの発言に不適当なことはなかったか、答弁に漏れはないかなど、会議中にチェックしたり、会議後に適正な処理をするのも議運の仕事。緊張の抜けない一年になりそうです。議長には宮沢正美、副議長には竹内良訓両県議が就任。

次回発行は、9月議会での一般質問を終えた、10月下旬頃を予定しています。

＜相坂摂治略歴＞
1973年生まれ47歳。
市立長田南小、城山中、県立静岡高から
明治大学法学部卒。
1999年25歳最年少で静岡市議会議員初当選3期。
2011年静岡県議会議員初当選。3期連続トップ当選。
自民党静岡県連政調会長、総務副会長、青年局長、
遊説部長を歴任。
県議会では総務、経済、建設委員会にて委員長など歴任。
今年度は議会運営委員会委員長。
著書『日本平DC構想』（1997年共著）
『青年は創り続ける』（2017年共著）